

豊中高校（高橋校長さま）

豊中高校同窓会（北会長さま）

創立九十周年の「記念行事」として

三国航空機材 空爆死者の 法要をするむねの お話しがあり

感激致しました ありがとうございます

ご遺族として 田中明君の弟さんが おいでくださいました

戦争末期の昭和二十年三月

敗色濃厚 しかも大半は上級学校へ進学すべきところ

新入生のうけいれ 動員工場が未定ということ

従来の工場へ行っておれとのことでした

教育制度改革のため 上級学校でも先生も先輩学生もいない

校庭はたいてい芋畑です

母校豊中高校も いちめんの芋畑に あの白き若き高きわが校舎は

迷彩色に塗られていました

私共 動員学徒は毎朝 阪急三国駅に集合 隊伍を組んで二キロ程の道を

今までどうりに

先頭に宮川先生 四列縦隊の学徒が続きます

戦争関連校以外は 赤紙が来るまでの時間かせぎです

それでも 十五から十七歳の未成年学徒たちは 工場の仕事は戦争に勝つためにお役に立つという使命感がありました

九名の爆死者もそうだったと思います それに学力優秀

体格健固有段者 早死させるのが 惜しい実に「ええヤツたち」

でした

二月に

海ゆかばを歌って卒業式はすまし
現役でなくオービー旧制豊中中学二十回生です

中学20回生爆死者の五十回忌法要は 金蘭会高女爆死者五十回忌と
合同で 看景寺にて開きました

わたくしは豊陵会の世話役四年の任期を終了し顧問になりました
法要には 看景寺住職 豊島今雄氏(豊高二十回生)
クラス担任 八幡先生 豊陵会小西顧問 ご遺族は今回もお見
えの田中様(今まで時々 お越しのかたがたは来られなくなりま
した)

参列したいが 参列できない人が います
二十回生は今年八十四歳の年男
多数のとてつもない遠いところにいるひと
現在家族の介護でたいへんなひと

日本人男性の平均寿命は七十九歳で 世界第一位と言っても
本人自身も たいていくつかの 病気をもっています
病院の予約の関係で行けない
入院中のひと

集会参加ドクターストップのひと
仕事の関係 老人の残暑の外出は危険 など など など

憶念の碑文は豊島今雄君の原作です

明記して忘れず わが師 わが友 学徒動員中

昭和二十年六月七日 午前十一時三十分頃

米軍機の爆撃を受け あたら散華

ともに死すべき条件のもと 今日を生きて

いのちの不思議を あらためておもう

君の無言の願いは また私のねがいでもある

昭和四十九年六月二日

旧豊中中学校二十回生 これを建つ

市村君が編集してくれた「憶念の詩」は私の 貴重な一冊です

もう一度読み返しました 全員が即死ですから半眼でした

あの時の情景を思いだし今この場にいる自分に 心からびつくり
しています「ともに死すべき条件のもと 今日を生きて

いのちの不思議を あらためておもう」

この原稿をつくりながらこれはよめないな と思うようになりま
したご挨拶は短い方がよいとされていますが 私では長くなって
も短くなりません

実行委員の皆 さん ありがとうございます